

海外水ビジネスの眼

日本、ロシア、韓国に続き、中国も61年ぶりに人口減少国に仲間入りした。改めて、世界の巨大市場と有望市場を、人口、GDP、貿易額、農業に分けてみておきたい。なお、世界の設備投資額の国別ランキングは見当たらず、分析の対象にできなかった。

分析・整理

1. 人口 人口は2022年に、1位中国が14億人強、2位インドも14億人強、3位米国が

3・3億人であ

り、4位はインドネシア、日本

は11位の1・2

(1・3億人(注)

である。圧倒的に中国とインドの人口が多い。最近伸びているのは、アフリカのナイジェリアで、2・2億人である。エチオピアとエジプトも1億人を超えた。なお、EUは27カ国全体で4・5億人である。

(注) 日本の人口は、2008年の1・28億人がピークであり、現在は1・25億人を割り込み、ピーク時から2・4%減少している。

2. GDP 2021年の規模では、1位米国22・7兆ドル、2位中国16・

6兆ドル、3位日本5・4兆ドル、4位はドイツである。EUは17・2兆ドルで、中国より少し大きい。EU全体も経済力では侮れない。

3. 貿易額 2019年の数字であるが、1位中国4兆578億ドル、2位米国4兆216億ドル。3位ドイツ2兆723億ドルで、日本は4位の1兆426億ドルである。

日本の貿易相手国(財務省貿易統計2021年)としては、1位中国、

世界の巨大市場と有望市場

2位米国、3位台湾、4位韓国、5位豪、6位タイ、7位ドイツ、8位ベトナム、9位香港、10位マレーシア(資源エネルギー大国では豪のみベスト10入り)である。

4. 農業 2020年の総生産額は、1位中国226兆円、2位インド59兆円、3位米国で45兆円であり、4位はブラジルである(4位はインドネシアとの統計もあり)。ちなみに、日本は10位である。

おわりに

水道と下水道の需要は、人口にほぼ比例すると思われるので、有望市場は、人口の多い国(中国・インド)と人口がこれから増えていくアフリカの国々ということになる。

工業用水の需要は、GDPや貿易額の相関関係が強いと思われるので、現在の有望市場は、引き続き米国、中国、それから、日本とドイツであるが、今後は経済成長が期待されるインドやアフリカの国々が有望となってくるであろう。

農業用水の需要は、農業総生産額の順位から見て、中国、インド、米国が多いと推測される。

いずれからみても、米国と中国が巨大市場であるが、今後の有望市場としては、(未だ日本の貿易相手国としてはベスト10入りしていない)インドと人口増加の多いアフリカの国々ということになるであろう。

わが国日本も岸田首相肝いりの少子化対策やDXが功を奏して、引き続き世界の巨大市場兼有望市場であり続けることを期待している。

(アリス)